

Save Our Earth

～地球を救え！～



前回の園児の様子

私たち40名と初めて対面した昭和幼稚園のみなさん。18名と私たちより少ないにもかかわらず、私たちの声を合わせても足りないくらい大きな声で元気よく挨拶してくれました。

挨拶のあと、あいうえお順に自己紹介をしてもらいましたが、園児のみなさんはとても元気がよく、私たちが圧倒されてしまうほどでした。

自己紹介の後は、最初に遊んで仲良くなろうということで、園児のみなさんと教室の中や、お遊戯室の中で積み木をしたり、ボール投げをしたり、かくれんぼをしたり・・・

園児のみなさん一人一人によっても、遊び方が全然違うことに驚きました。

私たちは、幼稚園児のみなさんと会う機会が普段なかなかないので、特に人見知りする様子もなく私たちと接してくれる園児の良さに、最初びっくりしました。私たちの言うこともしっかり受け止めてくれたので、とても楽しく実習することができました。

私たちが1時間半の交流を終えて帰るときは、「バイバイ」と最後まで手を振って見送ってくれたことがとてもうれしかったです。



前回の私たちの感想

始めは不安でしたが、思っていた以上に園児たちが積極的で、触れ合ってみると最初に抱いていた不安はすぐに吹き飛んでしまいました。しかも、思っていた以上にゴミの分別ができていました。とても元気で素直な子供たちと触れ合っ、園児について行くのが少し疲れる位でしたが、とても楽しかったです。以下、感想文を紹介します。

- ・ 幼児と接することがあまりなかったので、とても緊張した。同じ幼稚園にいる子でも、様々な性格があり、好きな遊びも違うことに驚いた。劇ではゴミの分別にどの子も積極的で、うれしかった。次回の訪問では、もっと仲良くなり、リサイクルのことについてももっと話したいと思った。(H.H)
- ・ 初めて先生という立場に立って幼児たちと接した。最初はやっぱり経験がないためどう声をかけてよいかわからなく困った。しかし時間がたつにつれてだんだんと幼児達と仲良く遊べるようになってとてもいい時間をすごすことができた。今回の経験はとても役に立った。まだ一回目なので二回目の目標も立てたいとおもった。これからもっと仲良くなりたい。(M.N)

今回行うこと テーマ： ごみのちがいを知ろう！

1. 自由遊び
今回は、学校に残って準備する班と、幼稚園に訪問する班に分かれての実習になります。幼稚園の訪問班は21名。仲良くなれるように自由遊びをします。
2. ごみの種類をマンツーマンで勉強
お兄さんお姉さんがごみの違いを教えます。「ペットボトルが洋服になるんだよ。」というように、リサイクルの知識も身につけます。「ペットボトルだけで捨てれば洋服になれるけれど、ほかのごみと一緒に捨てると、洋服になれないんだよ。」ごみも大切な資源であることを、じっくり10分間伝えたいと思います。
3. ごみつりゲーム
マグネットのついたごみを、釣竿で吊り上げます。園児3人と生徒3人のグループをつくり、グループ対抗で競います。釣れたごみはお兄さんお姉さんの持つリサイクル袋へ。洋服や窓ガラスなどが書いてあるお面を目印に、きちんと分別できるか確認します。このゲームは、2で教わった内容が理解できているかを確認するものです。
4. 手作り紙芝居
アンパンマンの紙芝居で、ごみを分けることがなぜ必要かを学びます。私たちがこの紙芝居で教えたことは、ごみも大切な資源であるということ。バイキンマンと一緒に、ごみがいろいろなものに生まれ変われることをお話の中で学びます。

保護者・職員の皆さんへ(1-4からのメッセージ)



桐高と昭和幼稚園、交流開始
環境教育すすめるべく

昭和幼稚園での環境学習の様子が、新聞にのりました!(桐生タイムス 15年9月29日)

アンケートにご協力ありがとうございました!

おかげさまでたくさんの保護者や職員の方に協力して頂きました。みなさんのアンケートは、大切な研究の成果を知ることにつながります。結果は次の新聞で一部報告しますので楽しみにしててください。

家庭や幼稚園でのご協力を!

園児の環境学習に欠かせないのは、保護者のみなさんや幼稚園の先生方の協力です。ご家庭でごみの捨て方についてお手本を見せたり、お子さんに実践する機会を与えたりしてください。園児のみなさんが出したごみを、しっかり分別できているかを確認し、もし間違っていたら、教えていただけるとうれしいです。

特集 環境問題 その2 リサイクルをさぐれ！！

なぜリサイクルするの？ 3つのR (リデュース・リユース・リサイクル)

私たちが毎日生活していく上で、ごみが出てしまうのは仕方がないことですが、一般廃棄物の一人当たりの量は、この10年間で約1100gと横ばいであり、減る気配はありません。

ごみの量が増えたのは、1985年～1990年ごろです。これは円高が進み、海外からの資源流入が急増したためです。最近の日本の物資収支を見ると、輸入資源は6.8億トン、輸入製品等は0.6億トン、国内資源は10.7億トンと合計18.1億トンが投入されたのに対して、輸出はわずか1.0億トンにすぎません。当面のごみとして一般廃棄物0.5億トン、産業廃棄物2.5億トンを処理しましたが、日本には、一年間に10億トンを超える物資が蓄積されていることとなります。これら蓄積された資源は、長期的にはいつかはごみになるので、このままでは大量廃棄社会からの脱却は難しいのです。

このような問題を解決する、つまり、ごみを減らすためには、ごみが発生するような資源の使い方を極力なくして、発生抑制(リデュース)し、すでに蓄積されているものを再使用(リユース)し、再資源化(リサイクル)して、新規資源の投入を抑制していくことが必要です。

桐生市のごみの出し方

リサイクルするといっても、ごみにはたくさんの種類があります。商店・飲食店・オフィス・学校・病院などの事業所から出る「事業系ごみ」、家庭から出る「家庭ごみ」があります。さらに家庭ごみは「可燃ごみ」「不燃ごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」などに分けられていますが、その区分は市町村によってまちまちです。

桐生市の区分は以下のようになります。

- ・ 可燃ごみ(生ごみ・ビニル・プラスチック製品・ゴム皮革類など)
- ・ 不燃ごみ(せともの・電気器具・電球など)
- ・ 資源ごみ(ペットボトル・トレイ・紙パック・新聞紙・ダンボール・ガラス・ビン・缶) 実践中の環境学習プログラムではこのごみの分別を重点的に行います。
- ・ 粗大ごみ(電子レンジ・ラジオ・ベッド・自転車など)

より詳しいことは、桐生市役所の清掃管理事務所(54-5553)に問い合わせれば教えてもらうことができます。

(桐生市役所のホームページ <http://www.city.kiryu.gunma.jp/web/home.nsf/>)

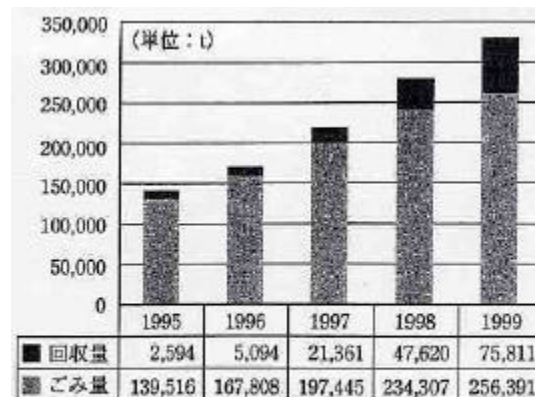
容器包装ごみと容器包装リサイクル法について

容器包装ごみは容積で家庭ごみの約6割を占め、重量では約3割を占めています。このごみを削減し、再資源化を進めるために「容器包装リサイクル法」(容器包装に係る分別回収及び再商品化の促進等に関する法律)が、1997年4月に施行されました。分別対象品目は当初7品目(ガラス瓶無色・茶色・その他、スチール缶、アルミ缶、ペットボトル、紙パック)でしたが、2000年4月から3品目(その他の紙

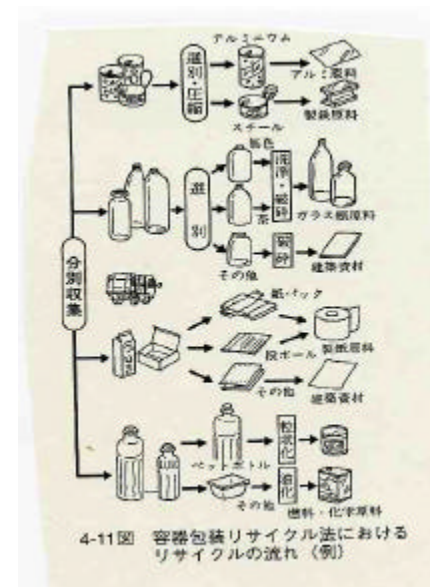
製容器包装、その他プラスチック製品、ダンボール)が追加され、全10品目となっています。

ペットボトルのリサイクル率は1996年には2.9%でしたが、1999年には22.8%と大幅に上昇してきていますが、まだ低いレベルです。右の図4-13を見ると、ペットボトルのリサイクル率は上昇しているものの、生産量が増え続けていることもあり、結果的にごみとなる量も増加する傾向にあります。

リサイクルは限りある資源を有効に利用するのに大切なことですが、それだけでは解決しないごみ問題があることに気づく必要があります。



4-13図 ペットボトルの生産量とごみとなった量
(「地球環境 よくなった?」コモンズより)



4-11図 容器包装リサイクル法におけるリサイクルの流れ(例)

また、これらの素材のうち、リサイクルで再び同じ容器として利用できるのは、ガラス瓶とアルミ缶だけです。ただし、ガラス瓶でも無色・茶以外は建設資材へ、アルミ缶もすべてリサイクル素材からは作れず、約1/3の混入にとどまり、余剰分はアルミ材へ利用されています。他の素材はほとんど品位の下がるものへの再利用(カスケードリサイクル)しかできません。スチール缶は鋼材へ、紙パックはトイレットペーパーへ、ペットボトルはポリエステル繊維へという具合です。(図4-11)

リサイクルで再資源化する際も、熱処理を行うわけですから、当然二酸化炭素が発生します。温暖化防止のためにも、なるべく使える容器は何度も使用するべきなのです。環境負荷の少ない容器としてリターナブルビン(回収して繰り返し使用するビン)がありますが、回収・運搬・洗浄などの費用が事業者もちになったり、利便性の面等からアルミ缶やペットボトルの利用率が上がっているのが現状です。(参考文献: 開隆堂 中学校技術・家庭科教科書 指導書より)

ごみ問題に対して私たちにできることは??

同様な商品で、容器使い捨てではないもの(リターナブルびん、容器持込み、詰め替え用中身など)がある場合には、なるべくそれを選択する。

使い捨て容器(スチール缶、アルミ缶、紙パック、ワンウェイビン、ペットボトルなど)の場合は、分別収集がスムーズに進むように、キャップやラベルを取り外し、中を洗浄して、指定の回収場所に出す。